

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 公立大学法人横浜市立大学  
理事長 田中 克子

横浜市立大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
氏 名	公立大学法人横浜市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

横浜市立大学附属病院
------------

3 所在の場所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9	電話(045)787-2800
-----------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 リウマチ・血液・感染症内科 2 腎臓・高血圧内科 3 内分泌・糖尿病内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 一般外科 2 消化器・肝移植外科 3 臨床腫瘍科・乳腺外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/> 1精神科	<input type="radio"/> 2小児科	<input type="radio"/> 3整形外科	<input type="radio"/> 4脳神経外科	<input type="radio"/> 5皮膚科	<input type="radio"/> 6泌尿器科
<input type="radio"/> 7産婦人科	<input type="radio"/> 8産科	<input type="radio"/> 9婦人科	<input type="radio"/> 10眼科	<input type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/> 12放射線科
<input type="radio"/> 13放射線診断科	<input type="radio"/> 14放射線治療科	<input type="radio"/> 15麻酔科	<input type="radio"/> 16救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	○有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科・口腔外科・矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 循環器科	3 消化器科	4 神経内科	5 心臓血管外科
6 リハビリテーション科	7 形成外科	8 病理診断科		

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	16床	0床	612床	654床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年8月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	473人	76人	486.5人	看護補助者	49人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	24人	2人	24.8人	理学療法士	12人	臨床検査技師	68人
薬 剤 師	42人	15人	55.6人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	0人	0人	0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	719人	49人	34.2人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	2人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	2人	2人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	95人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	42人	その他の職員	31人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	66人	眼科専門医	9人
外科専門医	26人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	11人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	12人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	5人
		合 計	211人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	549人	17人	566人
1日当たり平均外来患者数	1842人	68人	1910人
1日当たり平均調剤数			594 剤
必要医師数			161人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			347人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	181 m <sup>2</sup>	鉄骨造	病床数	8床	心電計	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	心細動除去装置	○有・無
			その他の救急蘇生装置	○有・無	ペースメーカー	有・○無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	11.55~13.43m <sup>2</sup> 台	病床数	11床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	32 m <sup>2</sup>			
化学検査室	1278 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備) 生化学多項目自動分析装置、 検体前処理・搬送システム			
細菌検査室	145 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備) 自動細菌検査装置、全自動血液培養装置			
病理検査室	312 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備) 自動免疫染色装置、電子顕微鏡			
病理解剖室	220 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備) 解剖室2室、更衣室、安置室(冷蔵室)			
研究室	14749m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備) 動物実験センター、RIセンター、臨床研究棟			
講義室	277 m <sup>2</sup>	鉄骨造	室数	2室	収容定員	180人
図書室	2398 m <sup>2</sup>	鉄骨造	室数	室	蔵書数	15万8600冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	85.5%	逆紹介率	56.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,824人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,386人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,008人
	D: 初診の患者の数		18,513人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	116 人	・膿疱性乾癬	7 人
・多発性硬化症	53 人	・広範脊柱管狭窄症	6 人
・重症筋無力症	48 人	・原発性胆汁性肝硬変	30 人
・全身性エリテマトーデス	203 人	・重症急性膵炎	11 人
・スモン	4 人	・特発性大腿骨頭壊死症	54 人
・再生不良性貧血	23 人	・混合性結合組織病	29 人
・サルコイドーシス	57 人	・原発性免疫不全症候群	16 人
・筋萎縮性側索硬化症	22 人	・特発性間質性肺炎	5 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	153 人	・網膜色素変性症	21 人
・特発性血小板減少性紫斑病	38 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	22 人	・肺動脈性肺高血圧症	10 人
・潰瘍性大腸炎	58 人	・神経線維腫症	9 人
・大動脈炎症候群	24 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	10 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	1 人
・天疱瘡	21 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12 人
・脊髄小脳変性症	68 人	・ライソゾーム病	1 人
・クローン病	8 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症 (ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ*	8 人	・脊髄性筋萎縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患 (進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	171 人	・球脊髄性筋萎縮症	0 人
・アミロイドーシス	2 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	12 人
・後縦靭帯骨化症	33 人	・肥大型心筋症	1 人
・ハンチントン病	3 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病 (ウイルス動脈輪閉塞症)	12 人	・ミトコンドリア病	9 人
・ウェグナー肉芽腫症	7 人	・リンパ管筋腫症 (LAM)	0 人
・特発性拡張型 (うっ血型) 心筋症	18 人	・重症多形滲出性紅斑 (急性期)	0 人
・多系統萎縮症 (線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	27 人	・黄色靭帯骨化症	1 人
・表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	20 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・歯科外来診療環境体制加算
・特定機能病院入院基本料 7対1	・臨床研修病院入院診療加算
・救急医療管理加算	・超急性期脳卒中加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・診療録管理体制加算2
・急性期看護補助体制加算	・看護職員夜間配置加算
・療養環境加算	・重症者等療養環境特別加算
・無菌治療室管理加算1	・無菌治療室管理加算2
・緩和ケア診療加算	・精神科身体合併症管理加算
・精神科リエゾンチーム加算	・摂食障害入院医療管理加算
・がん診療連携拠点病院加算	・医療安全対策加算1
・感染防止対策加算1	・患者サポート体制充実加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・ハイリスク分娩管理加算	・退院調整加算
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・後発医薬品使用体制加算2
・データ提出加算	・特定集中治療室管理料3
・ハイケアユニット入院医療管理料1	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・新生児特定集中治療室管理料2	・小児入院医療管理料3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・植込型除細動器移行期加算
・高度難聴指導管理料	・糖尿病合併症管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん患者指導管理料1
・がん患者指導管理料2	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・糖尿病透析予防指導管理料
・夜間休日救急搬送医学管理料	・外来リハビリテーション診療料
・外来放射線照射診療料	・ニコチン依存症管理料
・地域連携診療計画管理料	・がん治療連携計画策定料
・がん治療連携管理料	・認知症専門診断管理料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・薬剤管理指導料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科治療総合医療管理料
・持続血糖測定器加算	・造血器腫瘍遺伝子検査
・HPV核酸検出およびHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・検体検査管理加算(I)
・検体検査管理加算(III)	・検体検査管理加算(IV)
・遺伝カウンセリング加算	・植込型心電図検査
・胎児心エコー法	・時間内歩行試験
・ヘッドアップティルト試験	・皮下連続式グルコース測定
・長期継続頭蓋内脳波検査	・神経学的検査
・補聴器適合検査	・ロービジョン検査判断料
・コンタクトレンズ検査料1	・内服・点滴誘発試験
・センチネルリンパ節生検	・CT透視下気管支鏡検査加算
・画像診断管理加算1	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・CT撮影及びMRI撮影	冠動脈CT撮影加算
・大腸CT撮影加算	・心臓MRI撮影加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・外来化学療法加算1

・無菌製剤処理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・がん患者リハビリテーション料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・医療保護入院等診療料
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・透析液水質確保加算2	・CAD/CAM冠
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・組織拡張器による再建手術[乳房(再建手術)の場合に限る]
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・脳刺激装置植込術(頭蓋骨内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・緑内障手術[緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)]	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・網膜再建術	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術および植込型骨導補聴器交換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・経皮的冠動脈形成術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・補助人工心臓
・経皮的大動脈遮断術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・ダメージコントロール手術	・体外衝撃波胆石破砕術
・腹腔鏡下肝切除術	・生体部分肝移植術
・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下前小切開膀胱悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・輸血管理料Ⅰ
・自己生体組織接着剤作成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・内視鏡手術用支援機器加算	・歯周組織再生誘導手術
・広範囲顎骨支持型装置埋込手術	・麻酔管理料(Ⅰ)

・麻酔管理料(Ⅱ)	・放射線治療専任加算
・外来放射線治療加算	・高エネルギー放射線治療
・1回線量増加加算	・強度変調放射線治療(IMRT)
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・直線加速器による定位放射線治療	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・病理診断管理加算2	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・歯科矯正診断料	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・超音波骨折治療法
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断および治療	・抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術
・乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・腹腔鏡下子宮体がん根治術
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	15回/月
剖 検 の 状 況	剖検症例数 48例 / 剖検率 14.68%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アンジオテンシン1-7による前立腺癌細胞のアンドロゲンレセプター発現調整の解明.	上村博司	結石破碎室	507万円	補 委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(c) (平成25-27年度)
隣癌間質のプロテオーム解析.	遠藤 格	消化器・腫瘍外科学	70万円	補 委 文部科学省科学研究費基盤研究◎
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験.	國崎主税	消化器・腫瘍外科学	40万円	補 委 厚生労働科学研究費補助金
乳癌におけるCRMPの発現と臨床病理学的因子との相関の検討.	石川 孝	消化器・腫瘍外科学	40万円	補 委 文部科学省科学研究費基礎研究◎
高リスク女性に対する個別化検診をめざした乳癌罹患定量的アルゴリズムの開発.	石川 孝	消化器・腫瘍外科学	20万円	補 委 文部科学省科学研究費基礎研究◎
大腸癌肝転移巣における癌幹細胞	田中邦哉	消化器・腫瘍外科学	130万円	補 委 文部科学省科学研究費基盤研究◎
高リスク女性に対する個別化検診をめざした乳癌罹患定量的アルゴリズムの開発.	千島隆司	消化器・腫瘍外科学	200万円	補 委 文部科学省科学研究費基礎研究◎
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究.	大田貢由	消化器・腫瘍外科学	50万円	補 委 厚生労働科学研究費補助金

(小計 8件)

膵癌間質のプロテオーム解析.	森 隆太郎	消化器・腫瘍外科学	10万円	補 委	文部科学省科学研究費基盤研究◎
高リスク女性に対する個別化検診をめざした乳癌罹患定量的アルゴリズムの開発.	菅江貞亨	消化器・腫瘍外科学	20万円	補 委	文部科学省科学研究費基盤研究◎
高リスク女性に対する個別化検診をめざした乳癌罹患定量的アルゴリズムの開発.	山田美千代	消化器・腫瘍外科学	20万円	補 委	文部科学省科学研究費基盤研究◎
膵癌間質のプロテオーム解析.	廣島幸彦	消化器・腫瘍外科学	30万円	補 委	文部科学省科学研究費基盤研究◎
大腸癌肝転移巣における癌幹細胞.	廣島幸彦	消化器・腫瘍外科学	30万円	補 委	文部科学省科学研究費基盤研究◎
Fluorescent patient-derived orthotopic xenograftを用いた膵癌微小環境の生体内リアルタイムイメージング.	廣島幸彦	消化器・腫瘍外科学	30万円	補 委	財団法人横浜総合医学振興財団平成25年度奨励研究助成
全身性エリトマトーデスにおける炎症制御機構の破綻メカニズム.	浅見由希子	免疫・血液・呼吸器内科	160万円	補 委	平成25年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)
ベーチェット病に関する調査研究.	石ヶ坪良明	免疫・血液・呼吸器内科	324,9万円	補 委	平成25年度厚生労働省科学研究難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究.	石ヶ坪良明	免疫・血液・呼吸器内科	100万円	補 委	平成25年度 厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
これからのHIV/AIDS診療体制の在り方に関する研究.	石ヶ坪良明	免疫・血液・呼吸器内科	113万円	補 委	学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽)

(小計 10件)

ペーチェット病の感受性遺伝子探索と機能解明	桐野洋平	免疫・血液・呼吸器内科	200万円	補 委	公益財団法人 難病医学研究財団
ペーチェット病・脊椎関節炎のERAP1を標的とした治療法の確立	桐野洋平	免疫・血液・呼吸器内科	300万円	補 委	公益財団法人内藤記念科学振興財団研究助成
ペーチェット病新規感受性遺伝子KLRC4の機能解析	桐野洋平	免疫・血液・呼吸器内科	200万円	補 委	公益財団法人 上原記念生命科学財団
ペーチェット病と成人ステイラ病におけるM2マクロファージの機能解析と臨床応用	桐野洋平	免疫・血液・呼吸器内科	50万円	補 委	横浜総合医学振興財団平成25年度奨励研究助成
ペーチェット病をモデルとしたHO-1による自己炎症・自己免疫の制御(2011-2013)	岳野光洋	免疫・血液・呼吸器内科	110万円	補 委	学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))
成人同種造血幹細胞移植における骨髄破壊的前処置の臨床的意義	立花崇孝	免疫・血液・呼吸器内科	45万円	補 委	かながわ健康財団がん調査研究助成金
末梢性T細胞リンパ腫に対するTHP-COP-14療法の拡大臨床第II相試験	富田直人	免疫・血液・呼吸器内科	100万円	補 委	がん集学的治療研究財団
HO-1と転写抑制因子Bach1による破骨細胞分化制御の解明とその治療応用	浜 真麻	免疫・血液・呼吸器内科	160万円	補 委	学術研究助成基金助成金(若手(B))
関節リウマチ(rheumatoid arthritis;RA)における骨構造解析と画像検査の臨床応用	峯岸 薫	免疫・血液・呼吸器内科	50万円	補 委	浜総合医学振興財団平成25年度奨励研究助成
全身性エリテマトーデスにおける自己抗原TRIM21の治療標的としての可能性の検討	吉見竜介	免疫・血液・呼吸器内科	90万円	補 委	学術研究助成基金助成金(若手(B))

(小計 10件)



全身エリテマトーデスにおける炎症制御機構異常の解析	吉見竜介	免疫・血液・呼吸器内科	20万円	補 委	横浜総合医学振興財団平成25年度若手研究助成
TRUE gene silencing法による頭頸部癌増殖抑制の試み.	折館伸彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	総額520万円 (130万円,2013年)	補 委	科研費基盤研究(C)日本学術振興会
高地トレーニングに関する基礎研究 化学受容器における神経伝達物質の分子機構.	高橋優宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	10万円	補 委	科研費基盤研究(C)(2013年)日本学術振興会
同所性頭頸部癌モデルを用いた頭頸部癌頸部リンパ節転移に関する遺伝子の解明.	佐野大佑	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	330万円	補 委	平成24~25年度学術研究助成基金助成金 若手研究(B)日本学術振興会
不足するNICU病床の有効活用に向けて一高度集中治療不要の新生児を管理できる医療施設の充実と支援一.	西巻 滋	小児科学	4,196万円	補 委	平成22年度周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)
困難な状況におかれた親の妊娠・出産の支援に関する調査研究.	西巻 滋	小児科学	200万円	補 委	平成25年度こども未来財団児童関連サービス調査研究等事業(代表)
疾患iPS細胞を用いた新規プロテアソーム不全症(中條一西村症候群)の病態解析.	柳町昌克	小児科学	500万円/3年	補 委	科研費 若手(B)
個人の遺伝情報が健康管理に対する行動変容に及ぼす影響についての研究.	柳町昌克	小児科学	100万円/1年	補 委	ヘルスサイエンスセンター H25年度研究助成
院内製造PET薬剤の合成装置を用いた核医学診断技術の臨床応用に関するレギュラトリーサイエンスの研究.	井上登美夫	放射線医学	500万円	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(H25-医薬-指定-014)
強度変調放射線治療(IMRT)の最適化プログラムの開発.	幡多政治	放射線医学	50万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団奨励研究助成

(小計 10件)

スモン患者の自律神経機能と運動能力に関する研究.	水落和也	リハビリテーション科	80万円	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
新たなソケット作製キット導入により早期義肢装着を可能にするシステム構築.	水落和也	リハビリテーション科	10万円	補 委	平成24年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2010-2013)
新たなソケット作製キット導入により早期義肢装着を可能にするシステム構築.	根本明宜	リハビリテーション科	70万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2010-2013)
人体動作取得解析システムの開発およびエキスパート看護師の動作の一般応用可能性の検証.	根本明宜	リハビリテーション科	10万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2012-2013)
革新的な地域医療マネジメントモデルの構築と評価に関する研究.	根本明宜	リハビリテーション科	50万円	補 委	横浜市立大学平成25年度戦略的研究推進費(2013-2015)
全国リハビリテーション患者データベースを用いた維持期障害者に対する効果的な社会復帰支援に関する研究.	菊地尚久	リハビリテーション科	521.1万円	補 委	平成25年度厚生労働省科学研究補助金(障害者対策総合研究事業)(2011-2013)
脳外傷リハデータベースによる社会復帰に向けたリハ介入効果の多施設間検討.	菊地尚久	リハビリテーション科	143万円	補 委	平成25年度文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(2012-2014)
脳外傷による高次脳機能障害者に対する居宅訪問面接と行動観察による地域リハ・ニーズ評価.	菊地尚久	リハビリテーション科	15万円	補 委	平成25年度文部省科学研究費補助金基盤研究(C)
先天異常モニタリングに関する研究.	平原史樹	産婦人科	300万円	補 委	日本産婦人科医会おぎゃー献金基金
妊婦の風疹罹患および先天性風疹症候群の発生抑制等,胎児期の罹患予防に関する研究:ワクチンにより予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究.	平原史樹	産婦人科	120万円	補 委	厚生労働科学研究費(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事)

(小計 10件)

エコチル調査(環境省子どもの健康と環境に関する全国調査)	平原史樹	産婦人科	1億9000万円	補 委	学内共同研究
生殖・先天異常ならびに周産期異常における葉酸・葉酸代謝の果たす役割に関する研究.	平原史樹	産婦人科	90万円	補 委	文科省科学研究費基盤研究C
出生前診断における遺伝カウンセリング及び支援体制に関する研究.	平原史樹	産婦人科	500万円	補 委	厚生労働科学研究費(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)
ANXA4サブタイプの機能解析に基づく卵巣明細胞腺癌の抗がん剤耐性克服戦略の研究.	宮城悦子	産婦人科	160万円	補 委	文部科学省学術研究助成基金助成金基盤研究(C)
地方自治体および地域コミュニティー単位の子宮頸がん予防対策が若年女性の意識と行動に及ぼす効果の実効性の検証.	宮城悦子	産婦人科	1,070万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)(2011年度-2013年度)
子宮筋腫が巨大に発育する分子生物学的機序に関する研究	佐藤美紀子	産婦人科	130万円	補 委	学術研究助成基金基盤研究(C)(平成24年度-26年度)
医療安全に向けた医療事故判例における結果回避可能性の分析:医療と法の協働への挑戦.	上杉奈々	産婦人科	60万円	補 委	科学研究費補助金(特別研究員奨励費)(2011年度-2013年度)
救命救急センターにおける自殺未遂者再発防止事業.	平安良雄	精神科	500万円	補 委	横浜市受託研究費、平成25年
統合失調症の診断、治療法の開発に関する研究:高齢統合失調症患者の病態とリカバリーに基づく心理教育に関する研究(主任研究者:中込).	平安良雄	精神科	200万円	補 委	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費、平成25年
自殺対策のための効果的な介入手法の普及に関する研究(主任研究者:山田光彦).	平安良雄	精神科	70万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業(精神障害分野)、平成25年

(小計 10件)

精神疾患患者における自律神経活動動態の解明と分子生物学的研究.	岸田郁子	精神科	156万円	補 委	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(若手研究B),平成25年)
パニック障害における脳構造,生理機能,臨床症状との関連および性差.	浅見剛	精神科	310万円	補 委	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(若手研究B),平成25年)
クラビットR点滴静注500mg/100mL点滴静注500mg/20mL特定使用成績調査第10回 抗菌薬感受性年次別推移の検討	住友みどり	臨床検査部	50万円	補 委	委託研究, 第一三共株式会社
肝癌幹細胞維持および悪性化に関わるシグナル分子の解析.	前田 慎	消化器内科学	637万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(B)
胃癌幹細胞同定のための3次元培養法の確立と,発癌機序解明及び分子標的治療への応用.	芝田 涉	消化器内科学	250万円	補 委	平成25年度 文部科学省科学研究費補助金
肝発癌における腫瘍細胞および間質細胞の起源の同定と分子標的への応用.	前田 慎	消化器内科学	300万円	補 委	平成25年度 上原記念生命科学財団
非コード反復配列RNAの発現を主因とした多段階発癌の発癌機構の解明と制御.	前田 慎	消化器内科学	5万円	補 委	平成25年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(B)
肝癌幹細胞維持および悪性化に関わるシグナル分子の解析.	芝田 涉	消化器内科学	30万円	補 委	平成25年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究(B)
大動脈疾患における弾性線維形成異常の臨床的解析.	鈴木伸一	外科治療学	494万円	補 委	文部科学省科学研究費 基礎研究(C)(2013-2015年度)
KRAS変異・高増殖活性型肺腺癌の分子病理学的特性(S100蛋白質の関与).	禹 哲漢	外科治療学	182万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(H25~27年度)

(小計 10件)

早期手術及び予防を目指した大動脈瘤発生における責任遺伝子の臨床的解析。	益田宗孝	外科治療学	50万円	補 委	文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (2010-2013年度)
高速凍結技術の医療応用への検討に関する調査開発。	上條亜紀	輸血・細胞治療部	120万円	補 委	特定非営利活動法人ECML21
新規内因性軸索伸張促進因子 Lotusの脳虚血後神経再生に及ぼす効果。	川原信隆	脳神経外科学	390万円	補 委	文部省科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) (2012-2014年度)
新規内因性軸索伸長促進因子 LOTUSの脳虚血における生体応答解析。	高瀬 創	脳神経外科学	40万円	補 委	横浜学術教育振興財団研究費助成
虚血脳における新規軸索伸長因子 LOTUSの発現変動解析。	高瀬 創	脳神経外科学	50万円	補 委	日本脳神経財団研究助成
副交感神経による膵β細胞機能維持の解析。	伊藤 讓	内分泌・糖尿病内科学	65万円	補 委	科学研究費 基盤研究 (C) (平成25年度)
ジペプチジルペプチターゼ-4阻害による脂肪細胞機能制御。	木村真理	内分泌・糖尿病内科学	104万円	補 委	科学研究費 基盤研究 (C) (平成25年度)
グルコキナーゼ活性化薬による2型糖尿病の新規治療法開発。	白川 純	内分泌・糖尿病内科学	50万円	補 委	横浜総合医学振興財団 奨励研究助成
グルコキナーゼ活性化薬による2型糖尿病の新規治療法開発。	白川 純	内分泌・糖尿病内科学	50万円	補 委	横浜総合医学振興財団 奨励研究助成
グルコースシグナルを介した膵β細胞の小胞体ストレス制御メカニズムの解明。	白川 純	内分泌・糖尿病内科学	45万円	補 委	Front Runner of Future Diabetes Research研究助成

(小計 10件)

糖代謝を介した膵β細胞小胞体ストレス誘導性アポトーシスの制御機構解明.	白川 純	内分泌・糖尿病内科学	100万円	補 委	万有生命科学振興国際交流財団研究助成 生活習慣病領域
グルコキナーゼ活性化薬による膵β細胞小胞体ストレス誘導性アポトーシス制御機構の解明.	白川 純	内分泌・糖尿病内科学	100万円	補 委	かなえ医薬振興財団研究助成
糖代謝シグナルを介した小胞体ストレス制御による膵β細胞保護機構.	白川 純	内分泌・糖尿病内科学	247万円	補 委	科学研究費 若手研究(B)(平成25年度)
膵β細胞量に着目した糖尿病テーラーメイド医療の基盤整備.	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	429万円	補 委	科学研究費 基盤研究(B)(平成25年度)
膵β細胞におけるインクレチンおよびPACAP受容体の発現制御機構の解明.	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	299万円	補 委	科学研究費 挑戦的萌芽研究(平成25年度)
糖尿病診療均てん化のための標準的診療マニュアル作成とその有効性の検証.	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	60万円	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(JDCS).	寺内康夫	内分泌・糖尿病内科学	50万円	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
新たなソケット作製キット導入により早期義肢装着を可能にするシステム構築.	根本明宜	医療情報学・医療情報部	70万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2010-2013)
人体動作取得解析システムの開発およびエキスパート看護師の動作の一般応用可能性の検証.	根本明宜	医療情報学・医療情報部	10万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2012-2013)
革新的な地域医療マネジメントモデルの構築と評価に関する研究.	根本明宜	医療情報学・医療情報部	50万円	補 委	横浜市立大学平成25年度戦略的研究推進費(2013-2015)

(小計 10件)

パーソナルゲノム解析に基づくALSの疾患関連遺伝子検索と病態解明.	田中章景	神経内科	1,014万円	補委	文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究(平成22～平成26年度)
共通分子UBQLN2を通じたポリグルタミン病・ALS/FTLDの統合的病態解明.	田中章景	神経内科	1,131万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(平成25～27年度)
筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症における共通結合蛋白.	児矢野 繁	神経内科	13万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(平成23～25年度)
遺伝子未同定石像小脳変性症のエクソーム解析.	土井 宏	神経内科	143万円	補委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B(平成24～25年度))
卓上型次世代シーケンサーを用いた白質脳症の遺伝子診断法の開発と遺伝子診断法の開発と遺伝的背景の解明.	上田直久	神経内科	494万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(平成25～平成27年度)
潜在的ビタミンB1欠乏患者における患者因子についての検討.	平田順一	神経内科	156万円	補委	文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
慢性そう痒性皮膚疾患の病態解明と新規治療薬の開発.	相原道子	皮膚科学	190万円	補委	平成25年度科学研究費助成事業 基盤研究◎
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究.	相原道子	皮膚科学	400万円	補委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)
NSAIDs過敏気道疾患の原因, 発症機序解明とガイドライン作成に関する研究.	相原道子	皮膚科学	100万円	補委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー分野)
成人独自のアナフィラキシーの実態と病態に関する研究.	相原道子	皮膚科学	25万円	補委	平成25年度厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)

(小計 10件)

生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定。	相原道子	皮膚科学	50万円	補 委	平成25年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)
アレルギー疾患対策の均てん化に関する研究。	相原道子	皮膚科学	100万円	補 委	平成25年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)
重症蕁麻疹における抗原提示細胞のアクセサリ分子の発現と抗TNF $\alpha$ 抗体療法の検討。	藤田浩之	皮膚科学	70万円	補 委	平成25年度科学研究費助成事業 若手研究(B)
乾癬の病態におけるCaveolinの役割。	山口由衣	皮膚科学	120万円	補 委	平成25年度科学研究費助成事業 若手研究(B)
ガングリオシドーシスの中樞神経系における炎症のメカニズムの解明。	山中正二	病理診断科・病理部	60万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金 基盤研究(C)
ライゾーム病における免疫異常の関与機構の解明。	山口 章	病理診断科・病理部	30万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金 基盤研究(C)
非アルコール性脂肪肝炎におけるlipotoxicityによる病態の解明。	中島 淳	肝胆膵消化器病学	500万円	補 委	平成25年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (B)
慢性偽性腸閉塞症の新規治療法の開発。	中島 淳	肝胆膵消化器病学	140万円	補 委	平成25年度 学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究
慢性炎症の病態形成におけるレプチンの役割解明。	中島 淳	肝胆膵消化器病学	270万円	補 委	平成25年度 科学研究費補助金 新学術領域研究
miRNA-33を標的とした新規抗HCV作用の検討。	留野 渉	肝胆膵消化器病学	170万円	補 委	平成25年度学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究

(小計 10件)



慢性偽性腸閉塞症に対する新たな診断モダリティの確立および病態解明.	大久保秀則	肝胆膵消化器病学	160万円	補 委	平成25年度 学術 研究助成基金助成 金 若手研究 (B)
内視鏡・胃壁固定具補助下経皮的胃全層生検の有用性に関する研究.	野中 敬	肝胆膵消化器病学	110万円	補 委	平成25年度 学術 研究助成基金助成 金 若手研究 (B)
呼気法, 超音波法を用いた機能性胃腸症の病態解明の検討.	関野雄典	肝胆膵消化器病学	160万円	補 委	平成25年度 学術 研究助成基金助成 金 若手研究 (B)
NASH病態におけるエンドトキシン-脂質代謝障害の検討.	今城健人	肝胆膵消化器病学	160万円	補 委	平成25年度 学術 研究助成基金助成 金 若手研究 (B)
飽和脂肪酸の肝内でのlipotoxicityとNASH病態への関与.	小川祐二	肝胆膵消化器病学	160万円	補 委	平成25年度 学術 研究助成基金助成 金 若手研究 (B)
小腸疾患のpHに関する検討 (pHカプセルを用いて).	飯田 洋	肝胆膵消化器病学	120万円	補 委	平成25年度 学術 研究助成基金助成 金 若手研究 (B)
疾患モデル動物を用いた環境発がん初期過程の分子機構および感受性要因の解明とその臨床応用に関する研究.	中島 淳	肝胆膵消化器病学	240万円	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)
C型肝炎の新規診断法や新規治療法を開発するためのゲノムワイド関連解析の手法を用いた宿主因子の解析に関する研究.	中島 淳	肝胆膵消化器病学	70万円	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業)
小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成.	中島 淳	肝胆膵消化器病学	145万円	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業)
腸管希少難病群の疫学, 病態, 診断, 治療の相同性と相違性から見た包括的研究.	中島 淳	肝胆膵消化器病学	925万円	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)

(小計 10件)

非アルコール性脂肪肝炎 (non alcoholic steatohepatitis: NASH) の病態進展における肥満と腸内細菌由来エンドトキシンの役割を解明する。	今城健人	肝胆膵消化器病学	100万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団 推進研究助成
脂肪酸持続投与による新たな大腸発癌促進の分子メカニズムの解明。	遠藤宏樹	肝胆膵消化器病学	100万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団 推進研究助成
小腸内視鏡を用いたNSAID/低用量アスピリン起因性小腸粘膜傷害機序解明への分子生物学的アプローチ。	遠藤宏樹	肝胆膵消化器病学	50万円	補 委	公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団 研究助成 (B)
SNS (Social Networking Service) を用いた医学教育。	飯田 洋	肝胆膵消化器病学	50万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団 医学・医療関連事業助成
早期胃癌に対するNBI併用拡大観察の有用性に関する多施設共同研究。	野中 敬	肝胆膵消化器病学	50万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団 医学・医療関連事業助成
エイコサペンタエン酸 (EPA) を用いた大腸癌化学予防。	日暮琢磨	肝胆膵消化器病学	30万円	補 委	一般財団法人 横浜総合医学振興財団 若手研究助成
C型肝炎ウイルス (HCV) に対する抗miRNA-33薬の効果の検討。	留野 涉	肝胆膵消化器病学	20万円	補 委	一般財団法人 横浜総合医学振興財団 若手研究助成
経静脈的飽和脂肪酸投与による肝臓でのlipotoxicityの検討。	小川祐二	肝胆膵消化器病学	20万円	補 委	一般財団法人 横浜総合医学振興財団 若手研究助成
骨密度と筋力を考慮した有限要素法解析による変形性股関節症の進行予測と術後評価。	稲葉 裕	整形外科学	208万円(494万円)	補 委	平成25年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2013)
人工股関節全置換術の手術部位感染予防のための術前皮膚処置に関する検討。	稲葉 裕	整形外科学	20万円	補 委	平成25年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2013)

(小計 10件)

特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究。	稲葉 裕	整形外科学	10万円	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)(2013)
インプラント感染における新しい術中迅速メチシリン耐性ブドウ球菌感染診断法の開。	小林直実	整形外科学	490万円	補 委	H25年度文部科学省科学研究費 基盤研究(C)(2013)
PTH間欠投与が関節軟骨修復過程における間葉系幹細胞の動員と軟骨分化に及ぼす影響。	熊谷 研	整形外科学	160万円(507万円)	補 委	科学研究費補助金 基盤研究(C)(平成 25-27年度)
変形性関節症の新しい関節マーカーの開発。	熊谷 研	整形外科学	20万円(481万円)	補 委	科学研究費補助金 基盤研究(C)(平成 23-25年度)
抗微生物ペプチドを用いた感染の予防および治療。	崔 賢民	整形外科学	50万円	補 委	公益財団法人持田記念医学薬学振興財団
動脈硬化促進因子受容体への結合蛋白に着目した動脈硬化抑制療法の検討。	池谷裕子	循環器・腎臓内科学	110万円	補 委	科学研究費補助金(研究活動スタート支援)日本学術振興会
イオントランスポーターの翻訳後制御に着目した高血圧性心腎連関の分子機序の解明。	石上友章	循環器・腎臓内科学	80万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(2011-2013)
高血圧関連遺伝子の発見とその機能解析研究。	梅村 敏	循環器・腎臓内科学	500万円	補 委	上原記念生命科学財団研究助成金
受容体直接結合性分子に着目した高血圧関連生活習慣病の病態解明と新規治療法の探索。	田村功一	循環器・腎臓内科学	140万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(2012-2014)日本学術振興会
保存期慢性腎臓病患者での長時間作用型赤血球造血刺激因子製剤の血圧変動に与える影響。	田村功一	循環器・腎臓内科学	50万円	補 委	(財)日本腎臓財団公募助成腎不全病態研究助成、日本腎臓財団

(小計 10件)

加齢にともなう生活習慣病に対する生活習慣病憎悪因子受容体への直接結合性機能制御因子に着目した病態解明・新規分子治療標的の研究。	田村功一	循環器・腎臓内科学	150万円	補 委	日本老年医学会研究助成金(2012-2013)、日本老年医学会
腎臓欠損マウスを用いた異種間腎臓再生。	橋本達夫	循環器・腎臓内科学	160万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)
血圧感受性遺伝子ATP2B1の血圧および臓器障害に与える影響に関する研究。	平和伸仁	循環器・腎臓内科学	286万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)(2013-2015)
酸化ストレス感受性の発現を呈す憎悪因子APJ受容体に着目した動脈硬化症の病態解析。	吉田伸一郎	循環器・腎臓内科学	90万円	補 委	科学研究費補助金研究活動スタート支援(2013-2014)
アンジオテンシン受容体結合因子による高血圧治療の開発。	涌井広道	循環器・腎臓内科学	160万円	補 委	学術研究助成基金助成金 若手研究(B)(2012-2013)
口腔癌低酸素微小環境と癌浸潤メカニズムの解明。	足立 誠	口腔外科学	299万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)(2013年度)
歯周病と発癌の関連性に対する疫学的調査。	飯坂友宏	口腔外科学	40万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金奨励研究(2013年度)
口腔癌の頸部リンパ節転移に対する新規磁性抗癌剤を用いた選択的ハイパーサーミア。	飯田昌樹	口腔外科学	143万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)(2013年度)
ノートパソコンとのUSB接続によるポータブル歯科・口腔外科内視鏡システムの開発。	岩井俊憲	口腔外科学	169万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)(2013年度)
先端医科学研究センターにおける医療応用を目指した開発型研究。内視鏡を用いた低侵襲な歯科・口腔外科治療の普及を目指したファイバースコープシステムとバーチャルシミュレーターの開発。	岩井俊憲	口腔外科学	70万円	補 委	横浜市立大学戦略的研究推進費(2013年度)

(小計 10件)

口腔癌放射線及び化学療法後の再発・再増殖メカニズムの解明と新規抗血管療法の開発.	大久保牧子	口腔外科学	110万円	補委	文部科学省科学研究費補助金特別研究員奨励費(2013年度)
流体解析シミュレーションによる顎骨移動前後の気道形態と呼吸機能の検討.	大村 進	口腔外科学	130万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
口腔癌再発に関わる骨髄単球細胞のマクロファージへの分化機構.	來生 知	口腔外科学	143万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
転移に関わる癌幹細胞のエピゲノム解析と標的因子の探索.	來生 知	口腔外科学	200万円	補委	武田科学振興財団研究奨励(2013年度)
aPKC $\lambda/\iota$ の発現・局在異常は口腔がんの新たな診断基準となり得るか?	小泉敏之	口腔外科学	120万	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
口腔扁平上皮癌における予後予測因子としてのCOX-2発現の意義.	河野通秀	口腔外科学	75万円	補委	(財)東京医大がん研究事業団がん研究助成金(2013)
口腔癌に対する新規磁性微粒子を用いた抗腫瘍効果の検討.	佐藤 格	口腔外科学	120万円	補委	文部科学省科学研究費補助金特別研究員奨励費(2013年)
HIV感染者を対象とした口腔癌の早期発見と予防に関する研究.	筑丸 寛	口腔外科学	156万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
骨形成促進チタンファイバー綿製ブロックによる顎骨再建シミュレーション.	廣田 誠	口腔外科学	260万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
患者固有データを用いた流体シミュレーションによるオーダーメイド動注化学療法の開発.	藤内 祝	口腔外科学	520万円	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(2013年度)

(小計 10件)

化学放射線療法前後の頸部リンパ節流路の同定とICGを用いた潜在転移リンパ節の探索。	藤内 祝	口腔外科学	195万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究(2013年度)
流体解析シミュレーションによる顎骨移動前後の気道形態と呼吸機能の検討。	藤内 祝	口腔外科学	130万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
発現遺伝子に基づく組織の悪性度と患者免疫能評価を組み合わせた口腔癌の予備診断法。	藤内 祝	口腔外科学	130万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
温熱療法と分子標的薬の併用療法の開発。	中島英行	口腔外科学	110万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)(2013年度)
口腔癌におけるIL-13R・2をターゲットにした分子標的薬と癌ワクチンの併用療法の開発。	中島英行	口腔外科学	50万円	補 委	横浜総合医学復興財団 2013年度奨励研究助成
口腔癌に対する超選択的動注法のための複合画像誘導手法による手術支援システムの開発。	不破信和	口腔外科学	78万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
新規磁性抗癌剤を用いた口腔癌の遠隔転移に対する温熱免疫化学療法の開発。	光藤健司	口腔外科学	143万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
口腔癌に対する超選択的動注分子標的治療法の開発。	光永幸代	口腔外科学	195万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)(2013年度)
口腔癌の化学療法に対する口内炎によるG-CSF含嗽剤の有用性に関する検討。	渡貫 圭	口腔外科学	13万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2013年度)
糖尿病黄浮腫に対する内境界膜剥離後の網膜の機能と形態。	上本理世	眼科学	30万円	補 委	神奈川県眼科医会 神奈川県眼科臨床研究助成金

(小計 10件)

ペーチェット病などのHLA関連遺伝性眼疾患における疾患特異的な多型の網羅的検索。	水木信久	眼科学	950万円	補 委	新学術領域(H22-26)
救急患者の緊急度評価基準の確立と救急活動の質の評価に関する研究。	森村尚登	救急医学	800万円	補 委	平成24年度消防防災科学技術研究推進制度
定量化した毛細血管再充満時間によるショックの予測。	森村尚登	救急医学	500万円	補 委	平成24年度文部科学研究費補助金基盤研究(C)
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究。	森村尚登	救急医学	主任研究代表者一括計上	補 委	平成25年度厚生労働科学研究費補助金
麻酔科専門医養成におけるモデルシミュレーションプログラムの開発と検討。	中村京太	救急医学	80万円(直接経費)	補 委	平成25年度科学研究費補助金基盤研究(C)
シリアスゲームを取り入れた卒前医療安全教育の教材開発。	中村京太	救急医学	10万円(直接経費)	補 委	平成25年度科学研究費補助金基盤研究(B)
吸入麻酔薬の脳神経毒性に対する、マンニトール-エリスロポエチンの神経保護効果。	前島英恵	麻酔科	110万円	補 委	学術研究助成基金助成金、研究活動スタート支援、2012年度～2013年度学術振興会、補助金
長期休暇後の医師復帰支援のためのシミュレーショントレーニングプログラムの開発。	佐藤仁	麻酔科	170万円	補 委	学術研究助成基金助成金、若手研究(B)、2012年度～2014年度、学術振興会、補助金
術中鎮痛法が術後の生活の質に及ぼす影響に関する研究。	朝倉彩子	麻酔科	190万円	補 委	学術研究助成基金助成金、若手研究(B)、2012年度～2013年度、学術振興会、補助金
幼弱脳に対するブメタニドと麻酔薬の作用に関する検討。	刈谷隆之	麻酔科	100万円	補 委	学術研究助成基金助成金、若手研究(B)、2013年度～2015年度、学術振興会、補助金

(小計 10件)

メトニン受容体アゴニストによる 周術期せん妄予防に関する検 討.	山口嘉一	麻酔科	90万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、若手研究 (B)、2013年度～ 2015年度、学術振 興会、補助金
低酸素誘導性因子HIF活性化に よる肺胞上皮細胞保護効果の検 討.	高木俊介	麻酔科	130万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、若手研究 (B)、2013年度～ 2015年度、学術振 興会、補助金
低酸素応答システムによる代謝制 御を用いた多臓器不全に対する 臓器保護戦略.	柳大介	麻酔科	140万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、若手研究 (B)、2013年度～ 2015年度、学術振 興会、補助金
急性肺損傷発症機序の解明と、 治療戦略の確立にむけた多角的 アプローチ.	倉橋清泰	麻酔科	100万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2011年度～ 2013年度、学術振 興会、補助金
肺高血圧症におけるリアルタイム なカルシウム感受性測定による血 管収縮機構の解明.	水野祐介	麻酔科	60万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2011年度～ 2013年度、学術振 興会、補助金
レンチウイルスベクターを用いた 肺高血圧症治療.	渡邊至	麻酔科	100万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2012年度～ 2014年度、学術振 興会、補助金
全身麻酔後の記憶学習能変化と AMPA型グルタミン酸受容体の 関与に関する研究.	伊奈川岳	麻酔科	150万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2012年度～ 2014年度、学術振 興会、補助金
損傷を受けた神経細胞に対する 麻酔・鎮静薬の毒性に関する検 討.	安藤富男	麻酔科	140万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2013年度～ 2015年度、学術振 興会、補助金
幼弱脳に対する麻酔薬の興奮作 用と神経毒性との関係の解明.	石和大	麻酔科	110万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2013年度～ 2015年度、学術振 興会、補助金
成体ラット開腹手術モデルを用い た急性侵害性疼痛による記憶学 習能への影響の検討.	小川賢一	麻酔科	110万円	補 委	学術研究助成基金 助成金、基盤研究 (C)、2013年度～ 2015年度、学術振 興会、補助金

(小計 10件)



麻酔科医のメンタルヘルスの包括的改善策の検討.	水谷健司	麻酔科	80万円	補 委	学術研究助成基金助成金、基盤研究(C)、2013年度～2015年度、学術振興会、補助金
VIP受容体VAPAC2選択的アゴニストを用いた肺高血圧症治療.	川上裕理	麻酔科	180万円	補 委	学術研究助成基金助成金、基盤研究(C)、2013年度～2015年度、学術振興会、補助金
内因性NOS阻害物質代謝酵素の導入による肺血圧低下効果.	新堀博展	麻酔科	120万円	補 委	学術研究助成基金助成金、基盤研究(C)、2013年度～2015年度、学術振興会、補助金
肺胞上皮増殖因子遺伝子導入による肺保護戦略—臨床応用へのアプローチ.	馬場靖子	麻酔科	120万円	補 委	学術研究助成基金助成金、基盤研究(C)、2013年度～2015年度、学術振興会、補助金
網羅的行動テストバッテリーを用いた麻酔薬の新規効能探索.	後藤隆久	麻酔科	840万円	補 委	学術研究助成基金助成金、基盤研究(B)、2013年度～2015年度、学術振興会、補助金

(小計 5件)

合計 193件

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Clin Oncol,18:472-477,2013	Yokohama Bone Metastasis Study Group. Possible anti-tumor activity of initial treatment with zoledronic acid with hormonal therapy for bone-metastatic prostate cancer in multicenter trial.	Uemura H	結石破砕室
Hepato-Gastroenterology, 60 : 1945-1949, 2013.	Does resection of primary lesions show survival benefit for stageIV colorectal cancer patients with unresectable metastases?	Ichikawa Y	消化器・腫瘍外科学
Surg Today, 43 (4) : 372-380, 2013.	The effectiveness and appropriate management of abdominal drains in patients undergoing elective liver resection: a retrospective analysis and prospective case series.	Tanaka K	消化器・腫瘍外科学
Surgery, 153 (2) : 179-88, 2013.	Two-stage hepatectomy with effective perioperative chemotherapy does not induce tumor growth or growth factor expression in liver metastases from colorectal cancer.	Tanaka K	消化器・腫瘍外科学
Clin J Gastroenterol, 6 : 378-382, 2013.	Septic pulmonary embolism originated from subcutaneous abscess after living donor liver transplantation: a pitfall of postoperative management.	Takeda K	消化器・腫瘍外科学
Hepatogastroenterology, 60 (123) : 577-580, 2013.	Surgical outcome and proposed strategy for biliary stricture after living donor liver transplantation: a single center analysis.	Takeda K	消化器・腫瘍外科学
Anticancer Research, 33:5585-5590, 2013.	Adjuvant Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy with 5-Fluorouracil and Interferon After Curative Resection of Hepatocellular Carcinoma: A Preliminary Report.	Kumamoto T	消化器・腫瘍外科学
Anticancer Res, 33 (4) : 1367-1371. 2013.	Dynamic subcellular imaging of cancer cell mitosis in the brain of live mice.	Momiyama M	消化器・腫瘍外科学

(小計 8件)

Cancer Sci, 104 (8) : 1083-1090, 2013.	Conditionally replicative adenoviral vectors for imaging the effect of chemotherapy on pancreatic cancer cells.	Kimura J	消化器・腫瘍外科学
Ann Surg Oncol, 20 : S369-S378, 2013.	Collapsin response mediator protein 4 expression is associated with liver metastasis and poor survival in pancreatic cancer.	Hiroshima Y	消化器・腫瘍外科学
Cell Cycle, 12 (17) : 2774-2780, 2013.	Comparison of efficacy of Salmonella typhimurium A1-R and chemotherapy on stem-like and non-stem human pancreatic cancer cells.	Hiroshima Y	消化器・腫瘍外科学
Anticancer Research, 33 (11) : 5119-5121, 2013.	Early-Onset Brain Metastases in a Breast Cancer Patient after Pathological Complete Response Neoadjuvant Chemotherapy.	Shimada K	消化器・腫瘍外科学
Breast Cancer. DOI 10.1007/s12282-013- 0447-5, 2013.	Collapsin response mediator protein 2 is involved in regulating breast cancer progression.	Shimada K	消化器・腫瘍外科学
Clin J Gastroenterol, 6 : 485-489, 2013.	Solitary rib recurrence of hilar cholangiocarcinoma 10 years after resection: report of a case.	Ota Y	消化器・腫瘍外科学
Human Vaccines & Immunotherapeutics, 9 (6) : 1228-1233, 2013.	Remarkable tumor lysis in a hepatocellular carcinoma patient immediately following glypican-3-derived peptide vaccination: An autopsy case.	Sawada Y	消化器・腫瘍外科学
Anticancer Res, 33 (4) : 1747-1451, 2013.	Factors predictive of recurrence after surgery for gastric cancer followed by adjuvant S-1 chemotherapy.	Wada T	消化器・腫瘍外科学
Pancreatology, 13: 360- 368, 2013.	aPKC $\lambda / \iota$ is a beneficial prognostic marker for pancreatic neoplasms.	Kato S	消化器・腫瘍外科学

(小計 9件)

Endoscopy, 2013 ; 45 Suppl 2 UCTN:E284-5. doi: 10.1055/s-0033- 1344416. Epub 2013 Sep 5.	Diagnosis of biliary cystadenoma by peroral video cholangioscopy.	Watanabe S	消化器・腫瘍外科学
Pathol Int, 63 (7) : 358- 363, 2013.	Hepatocyte nuclear factor-1 $\alpha$ inactivated hepatocellular adenomas in patient with congenital absence of the portal vein: a case report.	Tateishi Y	消化器・腫瘍外科学
J Hepatobiliary Pancreat Sci, 20 (5) : 531-537, 2013.	Tumor diameter and Ki-67 expression in biopsy could be diagnostic markers discriminating from adenoma and early stage cancer in patients with ampullary tumors.	Kubota K	消化器・腫瘍外科学
Ann Surg Oncol, 20 (5) : 1470-1481, 2013.	Regional differences in gallbladder cancer pathogenesis: insights from a comparison of cell cycle-regulatory, PI3K, and pro-angiogenic protein expression.	Butte JM	消化器・腫瘍外科学
J Hepatobiliary Pancreat Sci, 20 (5) : 472-480, 2013.	Clinical features of pancreaticobiliary maljunction: update analysis of 2nd Japan-nationwide survey.	Morine Y	消化器・腫瘍外科学
Appl Radiat Isot, 75 ; 11-7, 2013.	Biodistribution and radiation dosimetry of [ <sup>18</sup> F]-5- fluorouracil.	Hino-Shishikura A	消化器・腫瘍外科学
J Surg Res,187(2):510- 517,2014.	Hand-Held High-Resolution Fluorescence Imaging System for Fluorescence-Guided Surgery of Patient and Cell-Line Pancreatic Tumors Growing Orthotopically in Nude Mice.	Hiroshima Y	消化器・腫瘍外科学
Br J Pharmacol,171(2):403- 414,2014	Ocular albinism 1(OA1),a G-protein coupled receptor GPR143,is a receptor that mediates depressor and bradycardic responses to DOPA in the nucleus tractus solitarii.	Hiroshima Y	消化器・腫瘍外科学
Ann Surg Oncol,21(2):670- 676,2014	Immunological impact of neoadjuvant chemoradiotherapy in patients with borderline resectable pancreatic ductal adenocarcinoma.	Homma Y	消化器・腫瘍外科学

(小計 9件)

Hematol Oncol. 2014 Feb 11.	Biweekly THP-COP therapy for newly diagnosed peripheral T-cell lymphoma patients.	Tomita N	免疫・血液・呼吸器内科
Med Oncol, 31(3):880. 2014 Mar	The rate of reduction in the maximum standardized uptake value from the initial to the post-R-CHOP therapy in positron emission tomography scan predicts disease progression in diffuse large B cell lymphoma patients.	Ishii Y	免疫・血液・呼吸器内科
Cancer Sci. 2013 Nov 8.	European Treatment and Outcome Study score does not predict imatinib treatment response and outcome in chronic myeloid leukemia patients.	Yamamoto E	免疫・血液・呼吸器内科
Int J Hematol, 98(6): 723-8, 2013.	Successful treatment of POEMS syndrome with bortezomib and dexamethasone, combined with radiotherapy, and followed by autologous stem cell transplantation.	Ishii Y	免疫・血液・呼吸器内科
Nat Genet. 45(2): 202-7, 2013.	Genome-wide association analysis identifies new susceptibility loci for Behçet's disease and epistasis between HLA-B*51 and ERAP1.	Kirino Y	免疫・血液・呼吸器内科
Proc Natl Acad Sci U S A. 110(20): 8134-9, 2013.	Targeted resequencing implicates the familial Mediterranean fever gene MEFV and the toll-like receptor 4 gene TLR4 in Behçet disease.	Kirino Y	免疫・血液・呼吸器内科
J Immunol, 190(4):1882-9, 2013	Oligodeoxynucleotides expressing polyguanosine motifs promote anti-tumor activity through the upregulation of IL-2.	Kobayashi N	免疫・血液・呼吸器内科
Proc Natl Acad Sci U S A, 110: 660-665, 2013.	Mfge8 suppresses airway hyperresponsiveness in asthma by regulating smooth muscle contraction.	Kudo M	免疫・血液・呼吸器内科
4:263, eCollection 2013.	Pathology of asthma. Front Microbio.	Kudo M	免疫・血液・呼吸器内科

(小計 9件)

Leukemia Research, 37(12): 1603-4, 2013.	Minimal residual disease-based risk stratification in acute myeloid leukemia.	Miyazaki T	免疫・血液・呼吸器内科
Int J Hematol, 97(3): 427-9, 2013.	Successful treatment of a pregnant woman with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Nakajima Y	免疫・血液・呼吸器内科
Int J Hematol, 98(4): 499-503, 2013.	Drug-induced liver injury after allogeneic bone marrow transplantation.	Tachibana T	免疫・血液・呼吸器内科
Leuk Lymphoma, 54(6): 1318-20, 2013.	Multicenter validation of scoring system of pre-transplant serum ferritin and disease risk in patients with acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndrome after allogeneic hematopoietic stem cell transplant.	Tachibana T	免疫・血液・呼吸器内科
Artif Organs, 37(10): 932-6, 2013	Concentrated Ascites Reinfusion Therapy for Sinusoidal Obstructive Syndrome After Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Takahashi H	免疫・血液・呼吸器内科
Leuk Lymphoma, 54(3): 662-4, 2013.	Successful disease control with L-asparaginase monotherapy for aggressive natural killer cell leukemia with severe hepatic failure.	Takahashi H	免疫・血液・呼吸器内科
Eur J Haematol, 90(4): 86-90, 2013.	Prognostic significance of programmed cell death-1-positive cells in follicular lymphoma patients may alter in the rituximab era. Prognostic significance of programmed cell death-1-positive cells in follicular lymphoma patients may alter in the rituximab era.	Takahashi H	免疫・血液・呼吸器内科
Int J Oncol, 42(2): 429-436, 2013.	Suppressive oligodeoxynucleotides synergistically enhance antiproliferative effects of anticancer drugs in A549 human lung cancer cells.	Takahashi R	免疫・血液・呼吸器内科
J Clin Exp Hematop, 53(2): 121-5, 2013.	Standard R-CHOP Therapy in Follicular Lymphoma and Diffuse Large B-Cell Lymphoma.	Tomita N	免疫・血液・呼吸器内科

(小計 9件)

Br J Haematol, 161(3): 383-8, 2013.	R-CHOP therapy alone in limited stage diffuse large B-cell lymphoma.	Tomita N	免疫・血液・呼吸器内科
A report of three cases and review of the literature. Tumori, 99(4): e172-e176, 2013.	Chemotherapy with carboplatin and paclitaxel after failure of primary chemotherapy for advanced thymic carcinoma.	Watanabe K	免疫・血液・呼吸器内科
J Thorac Oncol, 8(11): 1456-1457, 2013.	PET/CT findings for bone marrow carcinosis because of lung adenocarcinoma.	Watanabe K	免疫・血液・呼吸器内科
Intern Med, 52(23): 2653-2655, 2013.	Mycobacterium shinjukuense Lung Disease that was Successfully Treated with Antituberculous Drugs.	Watanabe K	免疫・血液・呼吸器内科
Cancer Sci, 104(12): 1670-4, 2013.	The MIB-1 labeling index as a prognostic factor for patients with follicular lymphoma treated with rituximab plus CHOP therapy.	Yamamoto E	免疫・血液・呼吸器内科
Intern Med, 52(19): 2259-2263, 2013	Long-term remission achieved via combined chemotherapy and radiotherapy in a non-resectable granulocyte colony stimulating factor producing pleomorphic carcinoma of the lung.	Yamamoto M	免疫・血液・呼吸器内科
Mod Rheumatol. 23(3): 456-65, 2013.	Ultrasonography is a potent tool for the prediction of progressive joint destruction during clinical remission of rheumatoid arthritis.	Yoshimi R	免疫・血液・呼吸器内科
Mod Rheumatol. Equib ahead of print, 2013.	Ultrasonography predicts achievement of Boolean remission after DAS28-based clinical remission of rheumatoid arthritis.	Yoshimi R	免疫・血液・呼吸器内科
Cancer Chemother Pharmacol, 72:837-43, 2013.	Treatment results and prognostic factors for advanced squamous cell carcinoma of the larynx treated with concurrent chemoradiotherapy.	Taguchi T	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科学

(小計 9件)

Head Neck, 35(3):321-8, 2013.	Early postoperative epidermal growth factor receptor inhibition: Safety and effectiveness in inhibiting microscopic residual of oral squamous cell carcinoma in vivo.	Sano D	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Cholesteatoma and Ear Surgery - An Update, 417-420, 2013.	A case of secondary acquired cholesteatoma with carcinoid tumor of the middle ear.	Sakuma N	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Eur Arch Otorhinolaryngol, 270(2): 727-733, 2013.	Limitations of PET and PET/CT in detecting upper gastrointestinal synchronous cancer in patients with head and neck carcinoma.	Yabuki K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
J Matern Fetal Neonatal Med, 〇(〇):〇-〇,2013.	Postnatal changes of cytokines in premature infants with or without funisitis.	Nishimaki S	小児科学
Int J Hematol, 98(6):702-7, 2013.	Influence of pre-hydration and pharmacogenetics on plasma methotrexate concentration and renal dysfunction following high-dose methotrexate therapy.	Yanagimachi M	小児科学
Cancer Chemother Pharmacol, 72(6):1335-42, 2013.	Flow cytometric chemosensitivity assay using JC 1, a sensor of mitochondrial transmembrane potential, in acute leukemia.	Yokosuka T	小児科学
PLoS One, 8(8): 〇-〇,2013.	Analysis of gender differences in genetic risk: association of TNFAIP3 polymorphism with male childhood-onset systemic lupus erythematosus in the Japanese population.	Kadota K	小児科学
Pediatr Int, 55(4):403-9, 2013.	Guidance for management.	Yokota S	小児科学
Pediatr Neonatol, 54(6): 402-5, 2013.	Clinical features of Mycoplasma pneumoniae infections in the 2010 epidemic season: report of two cases with unusual presentations.	Takei T	小児科学

(小計 9件)



J Pediatr Hematol Oncol. O(O):O-O, 2013.	Kaposiform Hemangioendothelioma Infiltrates the Gut Wall: A Rare Case Report.	Kajiwara R	小児科学
Clin Exp Rheumatol. 2013, 31(2):302-9, 2013.	Safety and efficacy of canakinumab in Japanese patients with phenotypes of cryopyrin-associated periodic syndrome as established in the first open-label, phase-3 pivotal study (24-week results).	Imagawa T	小児科学
Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi, 36(6):473-7, 2013.	2 cases of HLA-B27-positive seronegative spondylarthritides in pediatric age treated with adalimumab.	Sato T	小児科学
"Ann Rheum Dis, 72(4):627-8, 2013. doi: 10.1136/annrheumdis- 2012-202310. Epub 2012 Nov 30. No abstract available.	"Long-term treatment of systemic juvenile idiopathic arthritis with tocilizumab: results of an open-label extension study in Japan.	Yokota S	小児科学
Mod Rheumatol, 23(3):425-9, 2013. doi: 10.1007/s10165-012- 0769-8. Epub 2012 Oct 20. Review.	"Guidance on the use of canakinumab in patients with cryopyrin-associated periodic syndrome in Japan."	Yokota S	小児科学
Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi, 36(1):52- 7, 2013. Japanese.	[Chronic recurrent multifocal osteomyelitis with interstitial myositis].	Nagashima S	小児科学
Mod Rheumatol, 23(4):667-73, 2013. doi: 10.1007/s10165-012- 0711-0. Epub 2012 Jul 13.	"Radiologic analysis of the effect of tocilizumab on hands and large joints in children with systemic juvenile idiopathic arthritis."	Inaba Y	小児科学
J Infect Chemother, 19(1):144-8, 2013. doi: 10.1007/s10156-012- 0420-9. Epub 2012 May 10.	"Human parechovirus-3 infection in nine neonates and infants presenting symptoms of hemophagocytic lymphohistiocytosis."	Yuzurihara SS	小児科学
J Matern Fetal Neonatal Med., 2013 Dec 20.	Postnatal changes of cytokines in premature infants with or without funisitis.	Nishimaki S	小児科学

(小計 9件)

Int J Hematol.2013 Dec;98(6):702-7.	Influence of pre-hydration and pharmacogenetics on plasma methotrexate concentration and renal dysfunction following high-dose methotrexate therapy.	Yanagimachi M	小児科学
PLoS One.2013 Aug 30;8(8):e72551	Analysis of gender differences in genetic risk: association of TNFAIP3 polymorphism with male childhood-onset systemic lupus erythematosus in the Japanese population.	Kadota K	小児科学
2013 Jul;24(4):1469-72.doi:10.1097/SCS.0b013e31829030ed.	J Craniofac Surg.	Shibasaki M	小児科学
Pediatr Int.2013 Aug;55(4):403-9.doi:10.1111/ped.1215 Review.	Juvenile fibromyalgia: Guidance for management.	Yokota S	小児科学
Pediatr Neonatol.2013 Dec;54(6):402-5. doi:10.1016/j.pedneo.2012.11.016.Epub 2013 Jan 20.	Clinical features of Mycoplasma pneumoniae infections in the 2010 epidemic season: report of two cases with unusual presentations.	Takei T	小児科学
Strahlenther Onkol, 189(1): 26-32, 2013.	Efficacy and toxicity of (chemo)radiotherapy for primary subglottic cancer.	Hata M	放射線医学
Gynecol Oncol, 131(1): 99-102, 2013.	Radiation therapy for pelvic lymph node metastasis from uterine cervical cancer.	Hata M	放射線医学
Eur J Radiol, 82(1): 69-74, 2013.	Role of respiratory-gated PET/CT for pancreatic tumors: a preliminary result.	Kasuya T	放射線医学
Cancer Chemother Pharmacol, 72(4): 837-843, 2013.	Treatment results and prognostic factors for advanced squamous cell carcinoma of the larynx treated with concurrent chemoradiotherapy.	Taguchi T	放射線医学

(小計 9件)

Anticancer Res, 33(11): 5187-5192, 2013.	Chemoradiation as a definitive treatment for cervical lymph node metastases from unknown primary cancer.	Kaizu H	放射線医学
Int J Hematol, 98(4): 398-405, 2013, 10.	PET/CT in malignant lymphoma: basic information, clinical application, and proposal.	Tateishi U	放射線医学
Clin Nucl Med, 38(10): e379-383, 2013.	New application of 18F-fluoride PET for the detection of bone remodeling in early-stage osteoarthritis of the hip.	Kobayashi N	放射線医学
Appl Radiat Isot, 75: 11-17, 2013.	Biodistribution and radiation dosimetry of [ <sup>18</sup> F]-5-fluorouracil.	Hino-Shishikura A	放射線医学
Clin Nucl Med, 38: e125-131, 2013.	18F-Fluoride PET/CT allows detection of hyperostosis and osseous involvement in meningioma: initial experience.	Tateishi U	放射線医学
Ann Nucl Med, 27: 78-83, 2013.	Role of 18F-fluoride PET/CT in the assessment of multiple myeloma: initial experience.	Nishiyama Y	放射線医学
Pathol Int, 63(7): 358-363, 2013, 7.	Hepatocyte nuclear factor-1 $\alpha$ inactivated hepatocellular adenomas in patient with congenital absence of the portal vein: a case report.	Tateishi Y	放射線医学
Anticancer Research, 33: 5187-5192, 2013.	Chemoradiation as a Definitive Treatment for Cervical Lymph Node Metastasis from Unknown Primary Cancer.	Kaizu H	放射線医学
PloS One, 8(6): e63869, 2013.	Analysis of Multiple b-value Diffusion-Weighted Imaging in Pediatric Acute Encephalopathy.	Tachibana Y	放射線医学

(小計 9件)

interventional neuroradiology, 19(4): 461-465, 2013, 12.	Fenestrations of the Basilar Artery demonstrated on Magnetic Resonance Angiograms: an Analysis of 212 Cases.	Sogawa K	放射線医学
Strahlenther Onkol, 189(1):26-32, 2013, 1.	T.Efficacy and toxicity of (chemo)radiotherapy for primary subglottic cancer.	Hata M	放射線医学
Radiation Oncology 2014,9:26 9 January 2014	Clinical outcomes and toxicity of proton beam therapy for advanced cholangiocarcinoma.	Chiyoko Makita	放射線医学
Neuroscience, 237: 151-160, 2013	Effects of volatile anesthetics on the circadian rhythms of rat hippocampal acetylcholine release and locomotor activity.	Kikuchi T	医療安全・医療管理学
J Bone Miner Metab, 31(6):644-651, 2013.	Study of the distribution by age group of serum cross-linked C-terminal telopeptide of type I collagen and procollagen type I N-propeptide in healthy Japanese women to establish reference values.	Nomura Y	産婦人科
PLoS One, 8(11): e0080359, 2013.	Annexin A4 is involved in proliferation, chemoresistance and migration and invasion in ovarian clear cell adenocarcinoma cells.	Mogami T	産婦人科
2013 Sep 23. pii: S0033-3182(13)00136-9.	Lymphopenia Helps Early Diagnosis of Systemic Lupus Erythematosus for Patients With Psychosis as an Initial Symptom. Psychosomatics.	Chiba Y	精神科
PLoS One. 2014 Mar 24;9(3)	Multiple white matter volume reductions in patients with panic disorder: relationships between orbitofrontal Gyrus volume and symptom severity and social dysfunction.	Konishi J	精神科
Psychiatry Clin Neurosci. 2014 Feb;68(2):137-44.	Primary visual cortical metabolism and rapid eye movement sleep behavior disorder in dementia with Lewy bodies.	Chiba Y	精神科

(小計 9件)

Journal of Global Antimicrobial Resistance, 1: 91-96, 2013.	Analysis of the Influence of drug resistance factors on the efficacy of combinations of antibiotics for multidrug-resistant Pseudomonas aeruginosa isolated from hospitals located in the suburbs of Kanto area, Japan.	Kataoka H	臨床検査部
Liver Int, 33(1): 118-126, 2013.	Involvement of the apelin receptor APJ in Fas-induced liver injury.	Yasuzaki H	消化器内科学
Scand J Gastroenterol., 49(3):295-301, 2014	Use of color Doppler ultrasonography for evaluating vascularity of small intestinal lesions in Crohn's disease: correlation with endoscopic and surgical macroscopic findings.	Sasaki T	消化器内科学
Journal of Heart and Lung Transplantation, 32(5):539-545, 2013.	Time course of acquired von Willebrand disease associated with two types of continuous-flow left ventricular assist devices: HeartMateII® and CircuLite Synergy Pocket Micro-pump®.	Goda M	外科治療学
Circulation Journal, 76:2456-2464, 2013.	Inhibition of Phosphodiesterase Type 3 Dilates the Rat Ductus Arteriosus Without Inducing Intimal Thickening.	Ichikawa Y	外科治療学
Molecular and Clinical Oncology, 1: 749-752, 2013.	Phase II study on the combination of irinotecan plus cisplatin as a second-line therapy in patients with advanced or recurrent gastric cancer.	Rino Y	外科治療学
European Journal of Surgical Oncology, 39(6):655-661, 2013.	Global histone modification of H3K27 correlates with the outcomes in patients with metachronous liver metastasis of colorectal cancer.	Tamagawa H	外科治療学
Annals Surgical Oncology, 20(6): 2016-2022, 2013.	A Prospective Validation Study to Diagnose Serosal Invasion and Nodal Metastases of Gastric Cancer by Multidetector-row CT.	Hasegawa S	外科治療学
Annals Surgical Oncology, 20(13):4252-4259, 2013.	Priority of lymph node dissection for Siewert Type II/III adenocarcinoma of the esophagogastric junction.	Hasegawa S	外科治療学

(小計 9件)

Annals Surgical Oncology, 20(3):773-779, 2013.	Esophagus or Stomach? The Seventh TNM Classification for Siewert Type II/III Junctional Adenocarcinoma.	Hasegawa S	外科治療学
Japanese Journal of Clinical Oncology, 43(2):214-216, 2013.	A Randomized Phase II Trial of Omentum-preserving Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer.	Hasegawa S	外科治療学
Gastric Cancer, 16(3):383-388, 2013.	Omentum-preserving gastrectomy for advanced gastric cancer: a propensity-matched retrospective cohort study.	Hasegawa S	外科治療学
International Journal of Experimental Pathology, 3(3): 395-410, 2013.	Elevated microsatellite alterations at selected tetra-nucleotide (EMAST) in non-small cell lung cancers—a potential determinant of susceptibility to multiple malignancies.	Arai H	外科治療学
Endocr J, 60(4):493-499, 2013.	Mosapride citrate, a 5-HT <sub>4</sub> receptor agonist, increased the plasma active and total glucagon-like peptide-1 levels in non-diabetic men.	Aoki K	内分泌・糖尿病内科学
J Diabetes Invest, 4(6): 651-658, 2013.	Modification of a simple clinical scoring system as a diagnostic screening tool for nonalcoholic steatohepatitis in Japanese patients with nonalcoholic fatty liver disease.	Nakamura A	内分泌・糖尿病内科学
Int J Med Sci, 14(11): 21240-57, 2013.	Lessons from mouse models of high-fat diet-induced NAFLD.	Nakamura A	内分泌・糖尿病内科学
Diabetes, 62(10): 3448-58, 2013.	Glucokinase activation ameliorates ER stress-induced apoptosis in pancreatic $\beta$ cells.	Shirakawa J	内分泌・糖尿病内科学
Diabetes Obes Metab, 15(5): 455-62, 2013.	Comparative study of sitagliptin with pioglitazone in Japanese type 2 diabetic patients: the COMPASS randomized controlled trial.	Takahata M	内分泌・糖尿病内科学

(小計 9件)

Am J Physiol Endocrinol Metab, 305(8):E987-998, 2013.	Metformin prevents liver tumorigenesis induced by high-fat diet in C57Bl/6 mice.	Tajima K	内分泌・糖尿病内科学
PLoS One, 8(5):e64633, 2013.	AMPK is involved in the regulation of incretin receptors expression in pancreatic islets under a low glucose concentration.	Tajima K	内分泌・糖尿病内科学
Endocr J, 61(3):249-56,2014.	Effects of miglitol,vildagliptin,or their combination on serum insulin and peptide YY levels and plasma glucose, cholecystokinin,ghrelin,and obestatin levels.	Aoki K	内分泌・糖尿病内科学
Clin Exp Hypertens.36(2):97-102,2014.	Lifestyle modification system with use of earphone-type thermometer,ABPM and wrist-type pulse rate recorder.	Ono K	内分泌・糖尿病内科学
Prosthet Orthot Int. 2013 Jul 25;38(3):243-247	Chronic expanding hematoma in the stumps of persons following transfemoral amputation: A report of two cases.	Takakura T	医療情報学・医療情報部
Appl Clin Inform. 2014 Jan 15;5(1):46-57	Burden on university hospitals of handling portable data for imaging (PDI) media.	Hagiwara H	医療情報学・医療情報部
Internal Medicine , 52 (14) : 1629-1633, 2013. Medicine , 52 (14) : 1629-1633, 2013.	Identification of a novel homozygous SPG7 mutation in a Japanese patient with spastic ataxia: efficient diagnosis by exome sequencing for autosomal recessive cerebellar ataxia and spastic paraplegia.	Doi H	神経内科
Mov disord , 28 (4) : 552-553, 2013.	A novel SCARB2 mutation causing late-onset progressive myoclonus epilepsy.	Higashiyama Y	神経内科
Neuropathology. 33 (6) : 591-9, 2013.	Increased number of astrocytes and macrophages/microglial cells in the corpus callosum in amyotrophic lateral sclerosis.	Sugiyama M	神経内科

(小計 9件)

J Stroke Cerebrovasc Dis, 22 (7): 1193-1195, 2013.	Vascular Corticobasal Syndrome Caused by Unilateral Internal Carotid Artery Occlusion.	Miyaji Y	神経内科
Intern Med, 52 (18): 2163-3164, 2013.	Meningitis with pneumocephalus originating from a sacral pressure ulcer.	Miyaji Y	神経内科
Neurol Sci, 34 (12) : 2227-9, 2013.	Pseudo-subarachnoid hemorrhage in cryptococcal meningitis: MRI findings and pathological study.	Nakae Y	神経内科
J Neurol Sci. 324 (1-2) : 195-6, 2013.	Spinal cord infarction with cervical angina.	Nakae Y	神経内科
Neurogenet, 14 (3-4): 225-232, 2013:	Diagnostic utility of whole exome sequencing in cerebellar atrophy in childhood.	Ohba C	神経内科
Eur J Dermatol, 23(2): 275-277, 2013.	Multiple fixed drug eruption caused by cyclophosphamide and its metabolite.	Fujita H	皮膚科学
Br J Dermatol, 168(4):717-725, 2013.	Serum periostin levels are correlated with progressive skin sclerosis in patients with systemic sclerosis.	Yamaguchi Y	皮膚科学
Acta Derm Venereol ,93(6): 731-732, 2013.	A case of toxic epidermal necrolysis induced by allopurinol with human herpesvirus-6 reactivation.	Watanabe Y	皮膚科学
Contact Dermatitis, 69(5):315-316, 2013.	Contact dermatitis with systemic reaction caused by cetearyl isononanoate.	Ito K	皮膚科学

(小計 9件)



Food sci Tschol Res, 19(4):617-621, 2013.	Analysis of novel soybean sprout allergens that cause food-induced anaphylaxis.	Nakagawara R	皮膚科学
Cancer Res, 73:6642-6653, 2013.	The transcription factor IRF8 counteracts BCR-ABL to rescue dendritic cell development in chronic myelogenous leukemia.	Watanabe T	皮膚科学
Ann Allergy Asthma Immunol, 112(2):175-177, 2014.	Identification of peamaclein as a marker allergen related to systemic reactions in peach allergy.	Inomata N	皮膚科学
Eur J Dermatol, 24(1):120-122, 2014.	Correlation between nocturnal scratch behavior assessed by actigraphy and subjective/objective parameters in patients with atopic dermatitis.	Fujita H	皮膚科学
J Gastroenterol, 48(9): 1051-1060, 2013.	Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD): Noninvasive scoring systems in patients with nonalcoholic fatty liver disease with normal alanine aminotransferase levels.	Yoneda M	肝胆膵消化器病学
Hepato Res, 43(7): 735-742, 2013.	Evaluation of the liver fibrosis index calculated by using real-time tissue elastography for the non-invasive assessment of liver fibrosis in chronic liver diseases.	Tomeno W	肝胆膵消化器病学
Hepato Res, 43(9): 979-983, 2013.	Transient elastography for monitoring the fibrosis of non-alcoholic fatty liver disease for 4 years.	Suzuki K	肝胆膵消化器病学
J Hepatobiliary Pancreat Sci, 20(5): 531-537, 2013.	Tumor diameter and Ki-67 expression in biopsy could be diagnostic markers discriminating from adenoma and early stage cancer in patients with ampullary tumors.	Kubota K	肝胆膵消化器病学
Am J Gastroenterol, 108(7): 1130-1139, 2013.	Assessment of small bowel motility in patients with chronic intestinal pseudo-obstruction using cine-MRI.	Ohkubo H	肝胆膵消化器病学

(小計 9件)

J Neurogastroenterol Motil, 19(2): 227-232, 2013.	Early effect of single-dose sitagliptin administration on gastric emptying: Crossover study using the (13)C breath test.	Nonaka T	肝胆膵消化器病学
PLoS One, 8(6): e65211, 2013.	Soluble CD14 levels reflect liver inflammation in patients with nonalcoholic steatohepatitis.	Ogawa Y	肝胆膵消化器病学
J Epidemiol, 23(4): 288-294, 2013.	Epidemiology and clinical experience of chronic intestinal pseudo-obstruction in Japan: a nationwide epidemiologic survey.	Iida H	肝胆膵消化器病学
Expert Opin Emerg Drugs, 18(3): 279-290, 2013.	Emerging drugs for non-alcoholic steatohepatitis.	Tomeno W	肝胆膵消化器病学
Gut Liver, 7(5): 532-538, 2013.	Visceral obesity as a risk factor for left-sided diverticulitis in Japan: a multicenter retrospective study.	Yamada E	肝胆膵消化器病学
Int J Mol Sci, 14(11): 21833-21857, 2013.	Rodent models of nonalcoholic fatty liver disease/nonalcoholic steatohepatitis.	Imajo K	肝胆膵消化器病学
J Gastroenterol Hepatol, 28(Suppl 4): 41-47, 2013.	Colon epithelial proliferation and carcinogenesis in diet-induced obesity.	Takahashi H	肝胆膵消化器病学
Neurogastroenterol Motil. 2014 Jan 6.	Histopathologic findings in patients with idiopathic megacolon: a comparison between dilated and non-dilated loops.	Ohkubo H	肝胆膵消化器病学
World J Gastroenterol. 2014 Jan 28; 20(4): 978-987. Review.	Accumulation of aberrant DNA methylation during colorectal cancer development.	Sakai E	肝胆膵消化器病学

(小計 9件)

Int J Cancer.2014 Mar 3. doi:10.1002/ijc.28814.[E pub ahead of print ]PubMed PMID:24590867.	Methylation epigenotypes and genetic features in colorectal laterally spreading tumors.	Sakai E	肝胆胰消化器病学
J Hand Surg Am, 38(2): 357-361, 2013.	Pyoderma gangrenosum with wrist joint destruction. Case report.	Choe H	整形外科科学
J Pediatr Orthop, 33(3):e28-33, 2013.	Use of real-time polymerase chain reaction for the diagnosis of infection and differentiation between gram-positive and gram-negative septic arthritis in children.	Choe H	整形外科科学
J 14:255-262,2014.	Rapid sensitive molecular diagnosis of pyogenic spinal infections using MRS specific PCR and 16S rRNA gene-based universal PCR.	Choe H	整形外科科学
J Orthop Sci, 18: 969- 76, 2013.	Leg length discrepancy and lower limb alignment after total hip arthroplasty in unilateral hip osteoarthritis patients.	Fujimaki H	整形外科科学
The Journal of Arthroplasty, 28:1731- 1735, 2013.	Comparison of Mechanical Stress and Change in Bone Mineral Density Between Two Types of Femoral Implant Using Finite Element Analysis.	Hirata Y	整形外科科学
Mod Rheumatol, 23(4):667-73, 2013.	Radiographic analysis of the effect of tocilizumab on hands and large joints in children with systemic juvenile idiopathic arthritis.	Inaba Y	整形外科科学
J Orthop Sci, 19: 132- 140, 2014.	Multicenter study of Blount disease in Japan by the Japanese Pediatric Orthopaedic Association.	Inaba Y	整形外科科学
J Bone Miner Metab, 2013 Nov 15.	The effectiveness of mono or combined osteoporosis drug therapy against bone mineral density loss around femoral implants after total hip arthroplasty.	Iwamoto N	整形外科科学

(小計 9件)

Journal of Spine Research, 4(2): 136-142, 2013.	Analysis of survival prognostic factors in patients with newly detected metastatic spinal tumors.	Kawai T	整形外科科学
Clin Nucl Med, 38(10): e379-83, 2013.	New application of 18F-fluoride positron emission tomography for the detection of bone remodeling in early-stage osteoarthritis of the hip.	Kobayashi N	整形外科科学
J Neurosurg Spine, 19:76-80, 2013.	Anatomical study of superior cluneal nerve entrapment.	Kuniya H	整形外科科学
Acta Orthop, 84(6): 524-529, 2013.	Different Diagnostic Property of C-reactive Protein, Real-Time Polymerase Chain Reaction, and Histopathology of Frozen and Permanent Sections in Diagnosing Periprosthetic Joint Infection.	Miyamae Y	整形外科科学
J Arthroplasty, Dec 2, 2013.	Long-Term Results of Porous-Coated Anatomic Total Hip Arthroplasty for Patients With Osteoarthritis of the Hip.	Tezuka T	整形外科科学
Eur Spine J. 23(3):504-507,2014.	Lumbar forminal stenosis causes leg pain rest.	Yamada K	整形外科科学
PLoS One,8(10):e75560,2013.	Bofu-tsu-shosan, an oriental herbal medicine, exerts a combinatorial favorable metabolic modulation including antihypertensive effect on a mouse model of human metabolic disorders with visceral obesity.	Azushima K	循環器・腎臓内科学
FASEB J, 27(9): 3437-3445, 2013.	Anti-interleukin-5 and multiple autoantibodies are associated with human atherosclerotic diseases and serum interleukin-5 levels.	Ishigami T	循環器・腎臓内科学
Intern Med, 52(10): 1079-1083, 2013.	Rituximab treatment for adult purpura nephritis with nephrotic syndrome.	Ishiguro H	循環器・腎臓内科学

(小計 9件)

Ther Apher Dial, 17(2):243, 2013.	Effect of renin-angiotensin system inhibitor on residual glomerular filtration rate in hemodialysis patients.	Itoh Y	循環器・腎臓内科学
Int J Mol Sci, 14(8):15361-15375,2013.	Addition of aliskiren to Angiotensin receptor blocker improves ambulatory blood pressure profile and cardiorenal function better than addition of benazepril in chronic kidney disease.	Ohsawa M	循環器・腎臓内科学
Int J Mol Sci, 14(8):15361-15375,2013.	Addition of aliskiren to Angiotensin receptor blocker improves ambulatory blood pressure profile and cardiorenal function better than addition of benazepril in chronic kidney disease.	Ohsawa M	循環器・腎臓内科学
Ther Apher Dial, 17(2):185-192,2013.	Therapeutic potential of low-density lipoprotein apheresis in the management of peripheral artery disease in patients with chronic kidney disease.	Tamura K	循環器・腎臓内科学
Curr Pharm Des, 19(17):3043-3048,2013.	The physiology and pathophysiology of a novel angiotensin receptor-binding protein ATRAP/Agrap.	Tamura K	循環器・腎臓内科学
Cardiovasc Res, 100(3): 511-519, 2013.	Activation of angiotensin II type I receptor-associated protein exerts an inhibitory effect on vascular hypertrophy and oxidative stress in angiotensin II-mediated hypertension.	Wakui H	循環器・腎臓内科学
Hypertension, 61(6):1203-1210,2013.	Enhanced angiotensin receptor-associated protein in renal tubule Suppresses angiotensin-dependent hypertension.	Wakui H	循環器・腎臓内科学
CEN case reports, DOI 10.1007/s13730-013-0085-y, 2013.	Endovascular treatment of renal artery stenosis improves contralateral renal hypertrophy with nephrotic syndrome.	Wakui H	循環器・腎臓内科学
Liver Int, 33: 118-126, 2013.	Involvement of the apelin receptor APJ in Fas-induced liver injury.	Yasuzaki H	循環器・腎臓内科学

(小計 9件)

Hypertens Res.37(1):57-63.2014.	Small proximal aortic diameter is associated with higher central pulse pressure and poor outcome in patients with congestive heart failure.	Kamimura D	循環器・腎臓内科学
Oral Surg, 6(2):73-76, 2013.	Osteomyelitis of the jaws associated with osteopetrosis: case report of two sisters.	Adachi M	口腔外科学
J Transl Med, 11 (45), 2013.	Targeting of interleukin-13 receptor $\alpha 2$ for treatment of head and neck squamous cell carcinoma induced by conditional deletion of TGF- $\beta$ and PTEN signaling.	Hall B	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(7):e192-e194, 2013.	Ultrasonic vertical osteotomy of the distal segment for safe elimination of interference between the proximal and distal segments in bilateral sagittal split osteotomy for mandibular asymmetry.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(7): e186-e187, 2013.	Bisphosphonate-related enamel hypoplasia in a child with idiopathic arterial calcification of infancy.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(7): e165-e168, 2013.	Intraoperative lacrimal intubation to prevent epiphora as a result of injury to the nasolacrimal system after fracture of the naso-orbitoethmoid complex.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(6): e135-e136, 2013.	Use of a dial tension gauge to assess quantitatively the intraoperative improvement of ocular movement after endoscopic transantral repair of fracture of the orbital floor.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(5): e75-e76, 2013.	Safe method of extraction to prevent a deeply-impacted maxillary third molar being displaced into the maxillary sinus.	Iwai T	口腔外科学
Iran J Radiol, 10(2):74-76, 2013.	Peripheral osteoma of the mandibular notch: report of a case.	Iwai T	口腔外科学

(小計 9件)

J Craniofac Surg, 24(2):534-535, 2013.	Endoscopic hemostasis with an ultrasonically activated device for hemorrhage from a branch of the maxillary artery during endoscopically assisted reduction of condylar neck fracture.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(2):176-177, 2013.	Computer-assisted preoperative simulation for screw fixation of fractures of the condylar head.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(2):e26-e28, 2013.	Sentinel lymph node biopsy using a new indocyanine green fluorescence imaging system with a colour charged couple device camera for oral cancer.	Iwai T	口腔外科学
Br J Oral Maxillofac Surg, 51(2):184-185, 2013.	Hematoma of the tongue.	Iwai T	口腔外科学
Surg Radiol Anat, 35(1):75-78, 2013.	Thyrolinguofacial trunk arising from the carotid bifurcation determined by three-dimensional computed tomography angiography.	Iwai T	口腔外科学
Australas J Dermatol, 54(2):e46-e49, 2013.	Recurrent endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma in the eyelid.	Koike T	口腔外科学
J Med Dent Sci, 60 41-53, 2013	Changes in the Psychological Characteristics of Oral Cancer Patients in the Perioperative Period: A Quantitative Evaluation.	Koizumi A	口腔外科学
Case Rep Oncol, 6(1):66-71, 2013.	Proton beam therapy and continuous intra-arterial chemotherapy for polymorphous low-grade adenocarcinoma in the hard palate.	Makita C	口腔外科学
Aust Dent J, 58(4):424-427, 2013.	Cervicofacial subcutaneous emphysema associated with dental laser treatment.	Mitsunaga S	口腔外科学

(小計 9件)

Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol, 115(6):e13-e16, 2013.	Cervicofacial subcutaneous and mediastinal emphysema caused by air cooling spray of dental laser.	Mitsunaga S	口腔外科学
J Cancer Res Ther, 9(7): 718-720, 2013.	Thermochemoradiotherapy using superselective intra-arterial infusion for N3 cervical lymph node metastases of tongue cancer.	Nishiguchi H	口腔外科学
Int J Oral Maxillofac Surg, 42(5):627-631, 2013.	High-dose zoledronic acid narrows the periodontal space in rats.	Okamoto Y	口腔外科学
J Craniofac Surg, 24(3): 978-979, 2013.	Use of a simple handmade retractor to protect the descending palatine artery during removal of posterior osseous interferences for maxillary impaction in Le Fort I osteotomy.	Omura S	口腔外科学
Int J Oral Maxillofac Surg, 42(3):420-421, 2013.	Response to the comments on 'An accurate maxillary superior repositioning technique without intraoperative measurement in bimaxillary orthognathic surgery'.	Omura S	口腔外科学
Auris Nasus Larynx, 40: 330-333, 2013.	Occult functioning vagal paraganglioma in the infrahyoid carotid sheath.	Saito Y	口腔外科学
Craniofac Surg, 24(4):1469-1472, 2013.	Mandibular Ewing Sarcoma With Chromosomal Translocation t(21;22)(q22;q12).	Shibasaki M	口腔外科学
J Craniofac Surg, 24(3):e311-e314, 2013.	Actinomyces-associated calcifications in a dentigerous cyst of the mandible.	Shibasaki M	口腔外科学
J Craniofac Surg, 24(2):e192-e194, 2013.	Cartilaginous choristoma of the lower lip.	Shibasaki M	口腔外科学

(小計 9件)



Br J Ophthalmol, 97(6): 690-693, 2013.	Staining internal limiting membrane with a mixture of BBG and sodium hyaluronate.	Uemoto R	眼科学
Eur J Ophthalmol, 23(5): 718-722, 2013.	Preoperative factors associated with improvement in visual acuity after globe rupture treatment.	Nishide T	眼科学
Eye, 27(8): 979-983, 2013.	Association study of genetic variants on chromosome 7q31 with susceptibility to normal tension glaucoma in a Japanese population.	Kato T	眼科学
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol, 251(12): 2761-2767, 2013.	Comparison of LogMAR eye charts with angular vision for visually impaired: The Berkeley rudimentary vision test vs LogMAR one target Landolt ring eye chart.	Miwa M	眼科学
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol, 251(10): 2415-2420, 2013.	Reduction in choroidal thickness of macular area in polypoidal choroidal vasculopathy patients after intravitreal ranibizumab therapy.	Nishide T	眼科学
Case Rep Ophthalmol, 4(3): 134-137, 2013.	Cataract surgery for tilted lens in peters' anomaly type 2.	Nishide T	眼科学
Emerg Med J, 30(12):997-1002, 2013.	Emergency/disaster medical support in the restoration project for the Fukushima nuclear power plant accident.	Morimura N	救急医学
Anesth Analg, 117:329-339, 2013.	Reevaluation of the effectiveness of ramosetron for preventing postoperative nausea and vomiting: a systematic review and meta-analysis.	Mihara T	麻酔科
Anesth Analg, 117:740-744, 2013.	Trans-resectoscope stimulation predicts the need to block adductor response during bladder tumor resection.	Mihara T	麻酔科

(小計 9件)

Anesth Analg, 116:609-612, 2013.	The TaperGuard endotracheal tube intracuff pressure increase is less than that of the Hi-Lo tube during nitrous oxide exposure: a model trachea study.	Tsuboi S	麻醉科
Anesthesiology, 119: 1096-1108, 2013.	Bumetanide, an inhibitor of cation-chloride cotransporter isoform 1, inhibits $\gamma$ -aminobutyric acidergic excitatory actions and enhances sedative actions of midazolam in neonatal rats.	Koyama Y	麻醉科
Emerg Med, 45:57-64, 2013.	Blood pH is a useful indicator for initiation of therapeutic hypothermia in the early phase of resuscitation after comatose cardiac arrest: a retrospective study.	Takaki S	麻醉科
Eur J Neurosci, 37: 1602-1609, 2013.	Social isolation perturbs experience-driven synaptic glutamate receptor subunit 4 delivery in the developing rat barrel cortex.	Miyazaki T	麻醉科
Neuroscience, 246:664-669, 2013.	Phasic synaptic incorporation of GluR2-lacking AMP receptors at gonadotropin-releasing hormone neurons is involved in the generation of the luteinizing hormone surge in female rats.	Tada H	麻醉科
Neuroscience, 237:151-156, 2013.	Effects of volatile anesthetics on the circadian rhythms of rat hippocampal acetylcholine release and locomotor activity.	Kikuchi T	麻醉科
Paediatr Anaesth, 23: 464-464, 2013.	Is ramosetron superior to ondansetron?	Mihara T	麻醉科
Technol Health Care, 21:581-586, 2013.	Amount of accidental flush by syringe pump due to inappropriate release of occluded intravenous line.	Kawakami H	麻醉科
Biochem Biophys Res Commun, 14:415-9, 2014.	Role of nerve growth factor-tyrosine kinase receptor A signaling in paclitaxel-induced peripheral neuropathy in rats.	Nakahashi Y	麻醉科

(小計 9件)

合計 224件

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

回答なし

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
・ 手順書の主な内容 「臨床研究の倫理に関する手順書」として作成しており、臨床研究の実施手順からインフォームドコンセント、申請にあたっての留意事項、委員会への申請方法、研究の実施などといった内容で臨床研究に関する一連の手順を記している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
・ 規定の主な内容 横浜市立大学の教職員が、産学官連携活動やその他の社会貢献活動を行う上での利益相反を適正にマネジメントするため必要な事項を定めることにより、本学として社会貢献活動の推進を図ることを目的とする。 (公立大学法人横浜市立大学利益相反マネジメント規程) (公立大学法人横浜市立大学臨床研究利益相反委員会実施要綱)	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	必要に応じて開催

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 研究倫理講演会の年3回の実施 例として「疫学研究と臨床研究の統合指針について」、「生命倫理セミナー」などの題目で講演会を実施している。	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学の研修プログラムは20を越す多彩なプログラムを有しており、大学病院の専門診療科及び専門別センターで高度で質の高い医療に従事することができる。また、協力病院を始めとした地域医療機関での研修によって、臨床研修に引き続きプライマリ・ケアを含めた幅広い研修も行うことができる。研修期間は3年間であり、専門医取得に向けた大きな一歩となっている。

2 研修の実績

研修医の人数	79人 (H26年3月実績)
--------	----------------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石ヶ坪 良明	リウマチ・血液・感染症内科	教授	38年	
梅村 敏	腎臓・高血圧内科	教授	39年	
田中 章景	神経内科 脳卒中科	教授	27年	
寺内 康夫	内分泌・糖尿病内科	教授	26年	
前田 慎	消化器内科	教授	21年	
中島 淳	消化器内科 (肝胆膵)	教授	25年	
平安 良雄	精神科	教授	28年	
益田 宗孝	心臓血管外科	教授	28年	
遠藤 格	消化器・肝移植外科	教授	29年	
齋藤 知行	整形外科	教授	35年	
相原 道子	皮膚科	教授	33年	
矢尾 正祐	泌尿器科	教授	32年	
平原 史樹	産婦人科	教授	37年	
水木 信久	眼科	教授	25年	
折館 伸彦	耳鼻咽喉科	教授	26年	
井上 登美夫	放射線科	教授	37年	
藤内 祝	歯科・口腔外科・矯正歯科	教授	37年	
後藤 隆久	麻酔科	教授	27年	
川原 信隆	脳神経外科	教授	32年	
水落 和也	リハビリテーション科	准教授	32年	
前川 二郎	形成外科	教授	28年	
市川 靖史	臨床腫瘍科・乳腺外科	教授	28年	
森村 尚登	救急部	教授	28年	
大橋 健一	病理部	教授	28年	
宮島 栄治	臨床検査部	教授	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
※ 医師、歯科医師以外の医療従事者等で他の医療機関に所属する者はいない。 ・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画    ○ 2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 根本 明宜
管理担当者氏名	医事課長 村井 淳 / 総務課長 渡邊 昇

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課（サーバ一室・事務室） 医事課（病歴室） 薬剤部（処方せん）	◆手術記録・看護記録・検査所見・紹介状・入院要約・入院診療計画書：紙媒体（病歴室管理）→1患者/1カルテファイル/外来/1入院歴、電子媒体（サーバー室管理）→1患者/1カルテレコード ◆エックス線写真：フィルム媒体（病歴室管理）→1患者/1フィルム袋/1外来/1入院、電子媒体（サーバー室管理）→1患者/1検査日時/モダリティ
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	職員課	
	高度の医療の提供の実績	医事課(病歴室)	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	各関係部署	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課(病歴室)	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	総務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項及び第九の二十の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課（患者相談窓口）		



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条の十一 第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	集中治療室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      ○2. 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長 根本 明宜
閲覧担当者氏名	医事課長 村井 淳 / 総務課長 渡邊 昇
閲覧の求めに応じる場所	不定
閲覧の手続の概要 申込用紙(所属・氏名・ID・利用目的等)を提出し、内容を確認後、2週間を目途に貸出を行う。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	—	件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
・ 指針の主な内容： 1. 医療安全管理の基本方針 2. 医療安全管理のための組織体制 3. 医療安全のための職員研修 4. 報告および再発防止、レベル3b以上の事象が発生した場合の対応 5. 患者さん・家族と医療従事者間の情報の共有によるインフォームド・コンセント 6. 患者相談窓口 7. その他医療安全の推進 8. 本基本指針の改訂	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 23 回
(安全管理対策委員会 12回、リスクマネジャー会議 11回) ・ 活動の主な内容： 安全管理対策委員会：院内医療安全の方針を協議決定 リスクマネジャー会議：安全管理対策委員会の方針周知 リスクマネジャーによる事例検討 安全課題検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 193 回
・ 研修の主な内容： 医療安全に関する講演会、新採用・転入者職員医療安全研修、 人工呼吸器研修、看護に関する医療安全研修、他	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ○有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. インシデントシステムを用いた院内のインシデント報告の収集を実施 2. 収集したインシデントの問題点を分析し対応を行う 3. 職種横断的な対応が必要な案件は複数のリスクマネジャーによる事例の検討を行う 4. インシデントの件数、事故報告等は医療機能評価機構へ報告し、広く情報共有する	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	○有 (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有 (2名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
・ 所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 2 ) 名 ・ 活動の主な内容： 1. 事例対応 2. インシデント報告の把握 3. 協議：安全管理対策委員会の運営 4. 周知：リスクマネジャー会議の運営、広報、院内巡視 5. 教育：医療安全講演会、研修会の企画運営	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	○有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li><li>3. 職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 病院感染対策マニュアルに関する基本方針</li><li>7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 17 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療関連感染防止等についての検討</li><li>2. 感染症発生状況の把握</li><li>3. 発生時及び防止のための迅速な対応を行うための審議・検討</li><li>4. 感染対策マニュアル等の検討</li><li>5. ICT・感染対策推進部会、感染リンクナース会の活動把握</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 78 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 手指衛生サーベイランス報告会・結核について HIVについて 冬の感染対策 抗菌薬について（全職員）</li><li>2. 標準予防策 感染実習 感染管理・ミキシング（新人看護師・研修医）</li><li>3. 潜在性結核感染症について 手指衛生について BSI UTIの感染対策（感染対策推進部会 感染リンクナース会）</li><li>4. アルコール手指衛生剤の方法について（清掃業者）</li><li>5. 医療環境における建築・改修工事と感染予防（工事会社 委託業者）</li></ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ○有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病棟別菌発生頻度、材料別発生頻度、主要分離菌の検出と推移など臨床検査部から感染症レポートを報告している。院内で感染症が発生した場合、感染制御部に一報を入れる。感染制御部・ICTは、ラウンド等で状況把握に努め、助言・指導し、必要に応じてICT会議や臨時感染対策委員会を開催し対応を検討する。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 「エラー防止に向けた処方オーダーについて」：4/2 450名</li><li>2. 「薬剤部の役割（処方・投薬時の注意）」：4/8 112名</li><li>3. 「麻薬の取り扱いについて」：5/30 36名</li><li>4. 「抗がん剤処方について」：6/13 29名</li><li>5. 「HIVについて」：9/17～ 592名</li><li>6. 「抗菌薬について」：H26/2/18～ 310名</li></ol></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成：（ ○有・無 ）</li><li>・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 手順書の一部改正<ul style="list-style-type: none"><li>・ 血管漏出時の対応、血管外漏出で皮膚障害を起こす医薬品の種類と分類</li><li>・ 輸血事故防止のための確認作業</li><li>・ 事故発生時の対応</li></ul></li><li>2. 手順書に基づく業務チェックリスト作成と実施</li></ol></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ○有・無 ）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. PTPシートの誤飲（第2報）</li><li>2. ワクチンの取り扱い時の注意について</li><li>3. 誤った処方の不十分な確認</li><li>4. 医薬品に関する安全性速報（ブルーレター）：ヤーズ配合錠による血栓症について</li><li>5. 「イグザレルト錠」適正使用のお願い：イグザレルト錠服用中の間質性肺炎について</li><li>6. 医薬品に関する安全性速報（ブルーレター）<ul style="list-style-type: none"><li>：ゼプリオン水懸筋注シリンジ使用中の死亡について</li></ul></li><li>7. ダイアモックス注射用による重篤な副作用の発生について</li><li>8. 注射剤溶解後の安定性-2014年6月版-</li><li>9. 注射剤のフィルター通過性・使用ルート-2014年6月版-</li><li>10. 「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」について</li></ol></li></ul>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 58 回
・ 研修の主な内容： 新規導入医療機器および特に指定する8品目(①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器 ③血液浄化装置 ④除細動装置 ⑤閉鎖式保育器 ⑥診療用高エネルギー放射線発生装置 ⑦ 診療用放射線照射装置 ⑧麻酔器)の医療機器の安全使用に関する研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( ○有・無 ) ・ 保守点検の主な内容： 特に指定する8品目の医療機器の、メーカーによる年間保守点検およびMEセンターによる 定期点検の実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ○有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 厚労省ホームページ及びPMDA、メーカー通知等の情報を関連部署への通知 2. 必要に対応した研修の実施 3. 簡易取扱説明書の作成及び機器への添付	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	○有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構から病院機能評価Ver. 6.0にて認定を受ける。（平成24年1月21日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	○有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・病院ホームページでの情報提供、広報誌「With」の発行、エクステンション講座の開講	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	○有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 がんサーボードの開催、チームステップス研修の実施、NST・RSTの活動	

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 公立大学法人横浜市立大  
理事長 田中 克子

横浜市立大学附属病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

- 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜
- 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 リウマチ・血液・感染症内科 2 腎臓・高血圧内科 3 内分泌・糖尿病内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 一般外科 2 消化器・肝移植外科 3 臨床腫瘍科・乳腺外科	
診療実績	



- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="checkbox"/> 1精神科	<input type="checkbox"/> 2小児科	<input type="checkbox"/> 3整形外科	<input type="checkbox"/> 4脳神経外科	<input type="checkbox"/> 5皮膚科	<input type="checkbox"/> 6泌尿器科
<input type="checkbox"/> 7産婦人科	<input type="checkbox"/> 8産科	<input type="checkbox"/> 9婦人科	<input type="checkbox"/> 10眼科	<input type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 12放射線科
<input type="checkbox"/> 13放射線診断科	<input type="checkbox"/> 14放射線治療科	<input type="checkbox"/> 15麻酔科	<input type="checkbox"/> 16救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科・口腔外科・矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 循環器科	3 消化器科	4 神経内科	5 心臓血管外科
6 リハビリテーション科	7 形成外科	8 病理診断科		

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

3 不足している診療科の整備のための予定措置

現在、救急部として運用を行っている部署について、救急科への所属変更や病院情報システムへの新規登録等を実施し、平成27年度中に救急科の標榜を行う予定。